

Doshisha Business School

Business Studies - MBA

同志社大学大学院ビジネス研究科 ビジネス専攻 - MBA





同志社ビジネススクール(DBS、同志社大学大学院ビジネス研究科)は、ビジネス教育の国際認証機関であるAMBA(The Association of MBAs:英国)から、2023年10月18日にMBAプログラムの国際認証を取得しました。

1967年に英国で設立されたAMBAは、AACSB(The Association to Advance Collegiate Schools of Business:米国)、EFMD(The European Foundation for Management Development:ベルギー)とならぶ、世界で権威のある三大国際認証機関の1つです。

2023年10月現在、世界のビジネススクールの約2%、305校のみが国際認証AMBAを取得しており、同志社ビジネススクールの国際認証AMBAの取得は、日本国内のビジネススクールでは4校目で、関西に拠点を置く大学では初となります。

同志社ビジネススクールは、国際的な第三者機関による認証評価を経て、世界トップクラスの教育研究活動の質を確立しました。この国際認証は、DBSが提供する教育が良心教育の精神と、京都の伝統と革新を融合した知恵を活かし、持続可能な経済社会の発展に寄与するインテグリティ溢れるリーダーを育成していることを証明しています。AMBAの国際認証を取得することで、DBSの社会人大学院生の成長を重視した教育プログラムと、日本全国で活躍するDBSの卒業生コミュニティの質が世界的に認められました。

DBSは今後もAMBAのネットワークを駆使し、教育の質を絶えず向上させ、在学生及び卒業生への価値提供を追求します。日本語と英語で展開される独自のMBAプログラムを通じて、新たな時代を切り拓くリーダーを育成し、より良い社会作りに貢献していくことをお約束します。

Contents

研究科長からのメッセージ	1	主要科目の概要	12
同志社大学大学院ビジネス研究科ビジネス専攻とは		専任教員・客員教員および担当科目	14
同志社ビジネススクールのミッション	2	兼任教員・客員教員・嘱託教員および担当科目	20
「アドミッション・ポリシー」および「ディプロマ・ポリシー」	3	公開講座・特別講座	22
DBSの教育プログラム	4	同志社MOTコース(ダブル・ディグリー)／国際連携プログラム	24
DBSで養成される実践的応用力	5	グローバル経営研究専攻(修士課程)	25
社会人が学びやすい環境	6	学習環境	26
開講スケジュール	7	2025年度入試概要	28
履修パターン	8	修了生からのメッセージ	30
カリキュラム		DBSネットワーク	31
カリキュラム	9	サポート	32



**BUSINESS SCHOOL
ACCREDITED
2024.4~2029.3**

同志社大学大学院ビジネス研究科ビジネス専攻は、2023年度に財団大学基準協会の認証評価を受け、同協会の定める経営系専門職大学院基準に「適合」していると認定されました。

研究科長からのメッセージ



ビジネス研究科長 藤原 浩一

建学の精神を「良心教育」とする同志社大学は、創立者、新島襄が明治8年(1875)に設立した同志社英学校を起源とし、2025年で開学150周年を迎えます。その歴史の中で2004年、同志社大学大学院ビジネス研究科(同志社ビジネススクール:DBS)は地域の企業、日本企業の中核人材を生み出す機関として設置され、ちょうど20歳を迎えます。DBSはConscience and Human Dignity(良心と人間の尊厳)を基礎にInnovativeで責任ある経営を実行・実践できるリーダーの養成を目指してきました。

現在DBSは、日本語による「ビジネス専攻」と英語のみの講義からなる「グローバル経営研究専攻」の2つの専攻を擁し、2023年度に国際認証(AMBA)を取得、世界92カ国から多様な言語、多様な背景を持った人が学ぶまでに成長して来ました。20年という時間が経過する中、現役生、修了生が私たちの最大の資産となりました。

このようなDBSのミッションのもと、企業経営者のもとより、事業承継者、ホテルや病院の経営責任者、製造業の技術者、建築士、税理士・会計士、看護師、医師、金融関係者、公的機関で公務に携わる方など極めて多岐にわたる分野のひとたちがDBSに学び、さまざまな立場で経営や組織マネジメントを担うトップ、中核人材として活躍しています。

ですが、私たちはもっと先に進まなければなりません。

京都は日本の中でも稀有な地域性を持っています。最先端の製品を世界に提供できる企業群と1000年以上にわたり日本の美しさの根源となってきた伝統文化に裏打ちされた製品やおもてなしを提供できるファミリー企業群を有しています。この類稀なる古都の中心に私たちDBSは根をおろしつつ「グローバル」と「地域貢献」、一見この2つの両極端に見える方向性を同時に追求し、守備一貫した体系的なプログラムを我が校の門を叩いた方々に提供したいと考えています。

グローバル経営が当たり前になった現在の日本企業には収益性、人的資本経営、リスクマネジメントを包含するコーポレートガバナンスとESG、SDGsを意識した事業投資が求められるなど、地域社会や人類に対する貢献を含んだ企業価値創造が求められています。しかしこのような社会の要請は、150年前に創立者がわが同志社の中核的価値観としておいたものに他なりません。

現在の状況に問題意識をもち、遠くを見ようとし、変えていこうと思われているからこそ、みなさんはこのパンフレットをご覧になっておられるのかも知れません。大学院の学びを通じて一生の仲間ができるのがビジネススクールという場所です。厳しい競争原理の中で私たちはいったい何に着眼し、どのように考え、どう行動すべきなのでしょう。正しく考え、正しく行動し、他人に対してどれだけ正しい貢献をしたのかが収益の根源であると言えるかもしれません。正しく考えるために正しい知識を得る。

知識には人生を変える力があります。

皆様はDBSに仲間として加わり、将来を作り出す力を獲得していくことを切に願います。

ビジネス研究科長

藤原 浩一

同志社ビジネススクールのミッション

私たちのミッション

同志社大学建学の精神である良心教育と京都に育まれた伝統と革新の知恵に基づき、人間の尊厳を尊重し、企業や組織の成長を担えるリーダーシップを備えた人物を養成する。

Learning Goals
Responsible Innovative Leadership

同志社大学大学院ビジネス研究科(DBS)は2004年4月に設置された専門職大学院です。DBSのミッションは、「同志社大学建学の精神である良心教育と京都に育まれた伝統と革新の知恵に基づき、人間の尊厳を尊重し、企業や組織の成長を担えるリーダーシップを備えた人物を養成する」です。

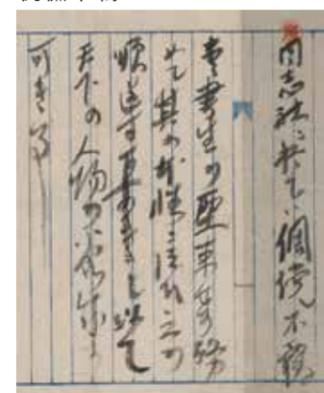
このミッションを反映した人材を輩出するために、社会人が働きながら日本語で学ぶビジネス専

攻およびビジネスでの活躍を目指す世界の留学生が英語で学ぶグローバル経営研究専攻において、教育とビジネスの実践を支える研究および社会貢献活動を行うことを通じて、経済社会の持続的な発展に貢献するビジネススクールたらんというビジョンを掲げています。

さらにDBSの大きな特色として、京都の伝統と革新をもたらす知恵を反映することがあります。昨今の企業経営を巡る経済環境の様々な変化や経済活動の多様化・高度化は、従来の企業内教育では対応しきれない多くの問題を招いており、DBSには企業や社会が求める優れた人材教育を実践する場としての役割が期待されているところです。このような要請に応えるべく、常に企業と社会に開かれた教育と研究を通して、グローバルな視野の下、伝統を踏まえそこから不断のイノベーションを生み出し、経済、社会の変化に的確に対応し企業や組織の持続的な発展を推進できる次世代ビジネスリーダーを育成する教育を提供してまいります。



倜儻不羈



新島襄の遺言を徳富蘇峰が口述筆記したもの

原文

同志社ニ於て八個倜儻不羈なる書生ヲ圧束せず務めて其の本性ニ従ひ之ヲ順導し以て天下の人物ヲ養成す可き事

現代語訳

同志社では倜儻不羈(てきとうふぎ)なる書生(信念と独立心に富み、才気があって常規では律しがたい学生)を圧迫しないで、できるだけ彼らの本性にしたがって個性を伸ばすようにして天下の人物を養成すること

DBSでは、グローバル化するビジネス環境には新島の遺言にある「倜儻不羈」な人材が必要であると考えています。

アドミッション・ポリシー

ビジネス研究科ビジネス専攻は、同志社大学の建学の精神である良心教育に立脚し、京都に位置する経営系の専門職大学院として、伝統を踏まえそこから不断のイノベーションを生み出すことを通じて経済、社会の変化に的確に対応し企業や組織の持続的な発展を推進できる次世代ビジネスリーダーを育成することを目的としています。そのために、次のような学生を求めています。

ビジネス研究科ビジネス専攻の求める学生像

1. 多様で広い視野を持ち、経済のグローバル化や技術革新・地球環境問題において積極的にビジネス分野で活躍をめざす学生。
2. 中小企業の起業・成長・継承をめざす学生、あるいは、地域の経済・社会の発展に貢献する意欲を持つ学生。
3. イノベーションに取り組み、単なる「ものづくり」企業からの脱皮と、市場のグローバル化、製品等のコモディティ化に対応しうるマネジメントのあり方に解をみつけようとする高い意欲を有する学生。
4. マーケティングの分野で専門的な知識を獲得し、企業や組織の発展に寄与する意欲を持つ学生。
5. 会計・ファイナンスの分野で専門的な知識を獲得し、社会、経済、企業の発展に寄与しようとする学生。
6. 企業を取り巻くビジネス環境の現状と今後の動向に関心を持つとともに、ビジネス環境に関する知識を駆使して、社会、経済、企業の発展に貢献することをめざす学生。
7. 特定の専門領域にとらわれず、組織マネジメント、人的資源管理、経営戦略等に関する総合的な知識を活かして、経営のさらなる高度化を図ることを企図している経営者、あるいは、次世代経営者としての職にある学生。

ビジネス研究科ビジネス専攻の入学までに身につけてほしいこと

1. 学習の基礎となる知識・教養に加えて、いずれかの事業分野における実務経験と専門的知識またはそれに準ずる学識や経験を身につけていること。
2. 上記の知識や経験に基づき、柔軟かつ論理的な思考力、判断力、表現力を持ち、自ら問題点を発見し、それを解決するため学習する力を持っていること。
3. 自らの事業分野または関心のある事業分野の課題解決と社会的課題解決への貢献のため、主体性をもって多様な経験や能力を持つ人々と協働して学習する意欲を持っていること。
4. 国内外の経済社会への高い関心の下、企業・組織が直面する諸課題や自らが取り組むべき課題を認識しまたは強い問題意識を持ち、ビジネス研究科で学ぶ目的が明確になっていること。

入学者選抜制度

これらの知識・経験、思考力・判断力・表現力、意欲、目的を有しているかを、書面および口述試験を通じて判定します。

ディプロマ・ポリシー

ビジネス研究科ビジネス専攻(以下では「本専攻」という)は、同志社大学の建学の精神である良心教育に立脚し、京都に位置する経営系専門職大学院として、伝統を踏まえそこから不断のイノベーションを生み出すことを通じて経済、社会の変化に的確に対応し企業や組織の持続的な発展を推進できる次世代ビジネスリーダーを養成することを使命としています。このため、本専攻の教育課程で所定の修了要件を満たす過程において、以下のような能力・資質・感性を修得した人物に「ビジネス修士(専門職)」(MBA)の学位を授与します。

1. 経営の基礎的知識や技能をもとに、発展的知識や技能を身につけ応用することができる。これらの知識・技能を駆使して、Responsible Innovative Leaderとして、国内外または地域社会のビジネスや経営に貢献することができる。(知識・技能)
2. 良心に基づき、革新を生み出すための思考や判断をすることができ、またリーダーとしての優れたコミュニケーションをおこなうことができる。(その際の言語は、まずは日本語を想定している。)これらの思考力・判断力・表現力を駆使して、Responsible Innovative Leaderとして、国内外または地域社会のビジネスや経営に貢献することができる。(思考力・判断力・表現力)
3. リーダーとして、主体的に動き、多様性を尊重し、協働性を発揮することができる。これらの主体性・多様性・協働性を駆使して、Responsible Innovative Leaderとして、国内外または地域社会のビジネスや経営に貢献することができる。(主体性・多様性・協働性)



DBSの教育プログラム

DBSの教育課程を修了するとビジネス修士（専門職）
Master of Business Administration：MBAの学位が授与されます



優れた企業経営者となるには、自身の経験だけでは十分ではありません。優れた先人の経験に照らして自分の経験を相対的に位置づけることや、先人の叡智に学ぶことがきわめて大切です。「学問とはわずかなときの間に、数百千年の人類の経験を受けとることである」「学べば学ぶほど何も知らないということが分かるようになる。何も知らないと分かるようになるほど、もっと学びたい」のです。学問と実践との間には深い溝があると思う人もいますが、実は、意外にその距離は離れていないのです。

上記のことを踏まえて、DBSにおける教育は次のステップで展開されます。まず、コアとなるビジネスの基本的な専門知識と必要な能力の修得を目指します。これらは、いつの時代、どこの国、どんな産業、組織においても共通して変わらぬ必須条件です。こうした基本的な知識、能力を修得することでMBAに期待される幅広い基盤形成が実現します。次に、それぞれの人材が活躍する様々な分野、業種、職種に対応した高度専門性を身につける段階に進みます。ここでは、それぞれの目的に即した科目を履修し、問題解決型の分析を学びます。こうして、専門知識をいかに実践的に活用するかという応用力が磨かれる事になります。そして、最終段階では、自らが設定した課題について、これまでに蓄積された先人たちの叡智を確認したうえで、未解決の問題にどのようにアプローチすればよいかを長いストーリーとして記述するソリューションレポートの作成に取り組みます。

いかに流暢に話せる人でも、また、スマートなプレゼンテーション資料を作る人でも、それらの人が説得力のある簡潔な文章が書けるわけではありません。データを活用し、ロジックを一つひとつ積み上げることで、初めて優れた文章が完成します。解決案の提示を文章で行うこと、また、レポート作成プロセスでの体験は、皆さんをさらに大きく成長させることでしょう。

DBSで養成される実践的応用力

MBAとしての実践的応用力は、「ソリューションレポート」の作成によって磨かれます。「ソリューションレポート」の作成は、演習科目である「プロジェクト研究基礎」→「プロジェクト研究I」および「プロジェクト研究II」により、それぞれのテーマを専門分野とする教員の指導の下に進められます。テーマが多くの分野にわたる場合は、複数の教員が相互に協力して指導に当たるシステムになっています。

ソリューションレポートとは

「ソリューションレポート」と研究者養成のための大学院における修士論文との違いはどこにあるのでしょうか。次の表をご覧ください。

	ソリューションレポート	修士論文
研究動機	実務経験に基づいた問題意識から生まれる動機	研究関心および研究のなお一層の進展
蓄積された叡智の活用	実務経験、書籍、論文、雑誌記事、新聞記事、統計データ等	書籍、論文、雑誌記事、新聞記事、統計データ等
研究方法	記述的方法、統計的分析、フィールド研究、文献レビュー等	文献レビュー、統計的分析、モデル分析、数理的モデル、実験室実験、歴史研究、フィールド研究等
論文の価値	実践的インプリケーション	既存研究の進展、新たな研究的知見

研究者養成のための大学院では、通常、5年間の研究期間を前提に研究を進めます。そのため、最初の2年間で、研究を行うための専門分野・周辺分野の知識の獲得と研究対象分野の研究蓄積の全容把握、研究を実施するための研究方法論を学びます。修士論文では、研究対象分野の研究蓄積の全容把握

握ができていないことを示す文献レビュー論文になることが多いのです。修士論文を踏まえて、独自に設定した研究テーマについて、研究完成にもっとも適した研究方法を採用して、オリジナルな博士論文を完成させます。一方、ビジネススクールでは、実務経験に触発されて設定したテーマについて、研究を通じて実践的インプリケーションのあるレポートを作成します。限られた修学期間中に修得できる研究方法是限定されているかもしれませんが、研究者の卵たちが採用する多様な研究方法を使用してももちろんかまいません。実務的インプリケーションは、十分な証拠、明快なロジック、既存知識の確認等があって初めて導出することができるのです。「…べきである」「…と思われる」「…と推察される」という文章を書きたくりますが、「べきである」と断定する根拠を示すことはとても難しいことです。「…と思われる」「…と推察される」という文は、ロジックが断絶していることや思考を途中で停止したことを自ら宣言しているわけです。

実務に直結するソリューションレポート

研究者の卵たちが書く論文よりも、実務経験という社会人のみが体得した知識や経験が追加されること、さらには、実践的インプリケーションを必ず持たなければならないという点で、ビジネススクールで作成する「ソリューションレポート」は、研究論文よりも一段と高度なものが要求されることになるでしょう。「問題発見」→「問題分析」→「問題分析結果（実践的インプリケーション）の提示」というプロセスを経て、「ソリューションレポート」は完成します。完成に至るプロセスでの体験は、MBA取得後に、間違いなく実務に応用できるものとなるでしょう。

- ソリューションレポートのテーマ
- 文献渉猟方法(文献・資料DBの活用方法)
- レポート執筆方法
- 引用・脚注の方法
- 参考文献リスト表記法

レポート原稿執筆 推敲

- 校閲(ロジック、章立て、段落立て、文章等)
- 追加文献・データの探索

レポート原稿修正・加筆 推敲(満足できるまで何度も)

ソリューションレポートの完成

ソリューションレポートのテーマ例

- 「福井・鯖江の眼鏡産業集積に関する研究
—大手資本進出が地場産業に与える影響の考察—」
- 「Know-How Trading理論に基づくノウハウ公知化の戦略」
- 「公開情報から探る企業の良心の研究」
- 「組織の構造的慣性と取引慣行の持続性
—テキストマイニングによるバイヤー・サプライヤー関係の分析—」

社会人が学びやすい環境

働きながら学ぶということ、それは「時間的な制約の中でいかに効率的に計画を立て、それぞれの目標に向かっていくか」という問題に対処することでもあります。この問題に効率的に対処するために、DBSでは、様々なキャリアデザインに対応できるカリキュラムを提供すると同時に、専任教員が入学から修了まで一貫して指導に当たる体制を敷いています。これにより、一人ひとりのバックグラウンドに応じた科目選択が可能になります。また、それぞれの目標に向けた効率的な履修計画、あるいは問題解決に向けた専門知識や手法の修得についても、専任教員によるサポートが得られます。このような充実した指導体制により、限られた時間の中で仕事と勉学とを効率的に進めることが可能となり、設定した目標が達成できるのです。

データで見る学生の姿(下の円グラフ)

- **年齢構成** — 30歳・40歳代が中心
原則として社会人を対象としているため、職務経験をもつ30歳代・40歳代の働きながら学ぶ社会人学生が多数を占めています。また、毎年若干名の学部新卒者も入学しています。
- **主な出身業界** — 多様な背景
製造業やサービス業従事者が比較的多く見られますが、他にも多様な業界から学びに来ています。
- **出身学部** — 自然科学系出身者も多い
技術畑で一定の職務経験を積んだ自然科学系学部出身者が比較的多く見られるのもひとつの特徴です。

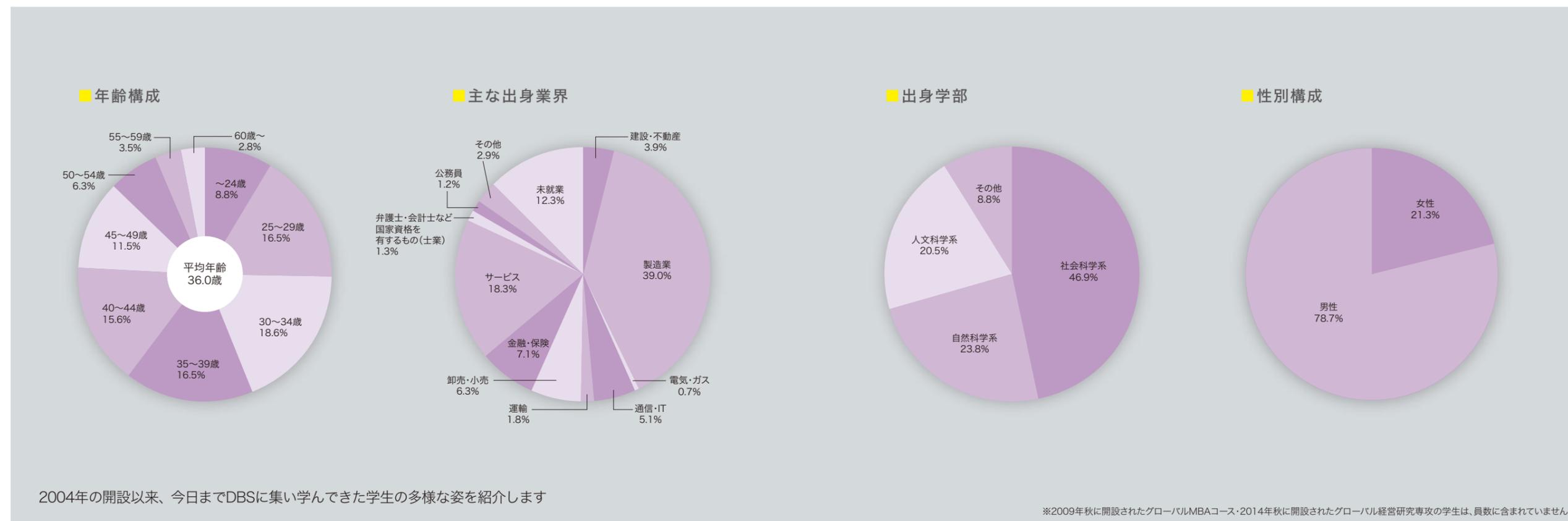
開講スケジュール

社会人が学びやすいように、DBSでは、今出川校地（寒梅館）のほかにも大阪（梅田）のサテライト・キャンパス内に教室を置いています。平日の夜間には、大阪サテライト・キャンパスでも今出川校地と同じ教員による同じ授業を開講しています。例えば、平日夜間に利便性のよい校地で1~2科目受講し、土曜日の昼間に今出川校地で2科目を毎学期受講すると、2年間で無理なくDBSの教育課程を修了することができます。

寒梅館に設置されている図書室やその他の学習スペースは年間を通じて24時間利用可能で、平日には仕事で時間が取りにくい方も、週末等に十分時間をかけて勉強できるよう配慮されています。

修了必要単位46単位のうち、ソリューションレポートの作成指導が行われるプロジェクト研究基礎、プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱを除く40単位を講義で取得する必要があります。修了希望年限を考慮し、計画的に受講計画を立ててください。

	月	火	水	木	金	土	
今出川	1限 9:00~10:30	今出川校地で開講 ※グローバル経営研究専攻科目					土曜は今出川校地で開講
	2限 10:45~12:15						
	昼休み 12:15~13:10						
	3限 13:10~14:40	今出川校地で開講 ※グローバル経営研究専攻科目					
	4限 14:55~16:25						
	5限 16:40~18:10						
	6限 18:25~19:55						
大阪	7限 20:05~21:35	平日夜間は 今出川校地および 大阪サテライト・キャンパスで 同じ科目を曜日を変えて開講					
	6限 18:25~19:55						
	7限 20:05~21:35						



カリキュラム (設置科目)

※2024年度設置科目から抜粋

<p>ソリューションレポート プロジェクト研究</p>	<p>ソリューションレポート プロジェクト研究</p>	<p>ソリューションレポート プロジェクト研究Ⅱ プロジェクト研究Ⅰ プロジェクト研究基礎</p>					
		<p>中小企業・地域経営</p>	<p>イノベーション</p>	<p>マーケティング</p>	<p>会計・ファイナンス</p>	<p>ビジネス環境分析</p>	<p>ゼネラルマネジメント</p>
<p>専門科目</p>	<p>専門科目 各専門分野について、より高度で最新の知識を獲得するための応用科目です。</p>	<p>産業集積とエコシステム 中小企業経営演習 ベンチャーファイナンス 戦略的企業再生 中小企業経営コンサルティング 観光マーケティング 京都の知恵ビジネス 地域ブランド戦略 都市経済学 中小企業・地域経営特殊研究</p>	<p>オープンイノベーション DXビジネス戦略 サプライチェーンマネジメント 技術マーケティング 知財マネジメント MOT概論 MOT特殊講義 イノベーション特殊研究</p>	<p>マーケティング戦略 広告・コミュニケーション 商品・ブランド開発 マーケティング特殊研究</p>	<p>リスクマネジメント 会計・監査 投資戦略 税務戦略 M&A戦略 コストマネジメント コーポレートファイナンス 会計・ファイナンス特殊研究</p>	<p>データ・サイエンス 現代地政学と 経済安全保障 マクロ経済分析 Green Management in Action ビジネス環境分析 特殊研究</p>	<p>ビジネスコミュニケーション ナレッジマネジメント リーガルマインド ゼネラルマネジメント特殊研究</p>
<p>共通科目B</p>	<p>共通科目B 各専門分野の共通科目Aで獲得した基礎知識をさらに拡充する発展科目です。共通科目Aで獲得した知識を前提としている点にご留意ください。</p>	<p>起業と事業創造 京都の伝統産業と文化ビジネス</p>	<p>プロジェクトマネジメント ビジネスモデル イノベーション</p>	<p>マーケティングリサーチ 消費者行動</p>	<p>ビジネス会計学 ビジネスファイナンス コーポレートガバナンス 管理会計</p>	<p>ミクロ経済分析 企業の社会的・国際的役割</p>	<p>リーダーシップ 企業価値経営 ダイバーシティ・マネジメント</p>
<p>必修科目・共通科目A</p>	<p>必修科目・共通科目A DBSでは、6つの専門分野(中小企業・地域経営、イノベーション、マーケティング、会計・ファイナンス、ビジネス環境分析、ゼネラルマネジメント)を設定しています。必修科目・共通科目Aは、各専門分野における基礎科目です。</p>	<p>中小企業経営</p>	<p>オペレーションズ マネジメント イノベーションマネジメント</p>	<p>マーケティング</p>	<p>基礎会計学・ファイナンス</p>	<p>ビジネス経済学 ビジネス統計学</p>	<p>組織行動と人的資源管理 経営戦略 企業経営と良心 組織マネジメント</p>
		<p>※紫色太字は必修科目</p>					

履修科目の選択について

入学時に、履修相談を担当する履修指導教員が決められます。履修科目の選択や履修計画については、履修指導教員の指導を必ず受けてください。なお、「プロジェクト研究基礎」の指導教員(ゼミ担当教員)決定後は、指導教員が履修指導教員となります。

グローバル経営研究専攻科目の履修について

全ての授業を英語で実施するグローバル経営研究専攻(P.25参照)の設置科目も、一定の条件の下で履修が可能です。ビジネス専攻の学生に配慮し、平日夜間に開講される科目もあります。

主要科目の概要 (2024年度開講科目)

専任教員が担当する主な授業科目について、講義の目的や講義内容、授業の進め方など、科目の概要を紹介しています。下記科目をはじめ、2024年度開講科目の詳細は、同志社大学ホームページからシラバスをご覧ください。
<https://syllabus.doshisha.ac.jp/>

組織行動と人的資源管理



人を活用し成果を上げ、サステナブルな経営を実現するために、個人と集団の行動に関する基礎理論を習得する。その応用として、人的資源の活用を目的とした諸施策についても学ぶ。これらを通じて、経営者、マネージャー、プロジェクトリーダー、または人事担当者として、人的資源を活用して成果を上げる実践的な力を養成する。

ビジネス統計学



データを基礎とするビジネスを構築するための基礎能力として、「統計理論の数理的知識・計算能力」、「ソフトウェアの操作能力」、「データベースを扱う能力」、以上少なくとも3つの能力が必要となる。そこで本科目では、データベースの基礎知識とソフトウェア操作の基礎能力を基盤に、統計数理の計算練習を通じ「記述統計」の基礎を固め、ついで「推測統計」を学ぶ。統計的推定・検定では正規分布、t分布、F分布、カイ二乗分布の理論的基礎を学び、平均値の差の検定、適合度検定などの演習を行う。その上で「多変量解析」について学習する。特にビジネスを考察する分析方法として、相関・回帰分析、主成分、因子分析、クラスター分析、判別分析などについて学ぶ。(これらの理論は機械学習の基礎理論でもある。)

イノベーションマネジメント



企業の持続的成長のドライバーであるイノベーションについて、次の3つの視点から網羅的に学習する。①イノベーションの基礎理論、②イノベーションの阻害要因、③イノベーションの促進方法。これらの分野の代表的な文献をしっかりと読み込んだうえでディスカッションを行うことで、イノベーションに関する理解を深める。



経営戦略



戦略経営の核心は「事業成功」を成し遂げることにある。事業プランニングは戦略経営の重要な要素であるが、プランニング自体が戦略経営と同義であるわけではない。つまり、プランニングと戦略は区別されるべきである。本科目では、戦略経営のフレームワークや理論体系の概念的理解とともに、その実践方法の習得を目的としている。取り組むべきキークエスチョンは次の三つである：「なぜある企業は他社よりも優れたパフォーマンスを達成するのか」、「良い戦略・良い戦略経営とは何か」、「戦略分析はいかに行うべきか」。

ビジネス経済学



経済学は、消費や生産に関する個人や企業による選択行動と、それらの間の相互関係を通じて実現する結果について研究する学問である。ビジネスの実務者は、投資や生産・流通の方式、顧客の獲得戦略などさまざまな意思決定(すなわち選択)を行うが、適切な選択を行うためには、自身が取り扱う財やサービスについて知るだけでなく、企業間の競争や市場の構造など経済メカニズムに関する理解が不可欠である。この科目では、学部で経済学を専門的に学ばなかった学生を対象として、ミクロ経済学とマクロ経済学の基本について講義する。その際、ビジネス実務において経済学がいかに有用であるか、事例を用いながら説明することとする。

中小企業経営



経営に関する理論や分析手法の多くは中小企業にも適用可能である。しかし、中小企業にとってどの理論や分析手法が特に重要であるか、また、理論や分析手法の適用に際してどのような視点を重視するかは必ずしも大企業と共通ではない。本科目では、中小企業およびその経営の特色を踏まえ、経営理念、事業ドメイン、内外事業環境分析の基本的手法の適用により中小企業の経営戦略を考察するとともに、中小企業の組織・人材マネジメント、事業承継、海外展開、財務戦略のあり方について考察する。

京都の伝統産業と文化ビジネス



本科目では京都の伝統産業と文化ビジネスの歴史、本質、現状を分析し、高付加価値の文化ビジネスへの展開を主テーマに授業を進める。三部構成で、第1部では京都の伝統産業の基礎知識を学び、第2部では職人や経営者から実践的な知見を得る。最後の第3部では、プロジェクトベースの学習を通じて具体的な提案を作成し、伝統産業のグローバルな文化ビジネスへの転換を探究する。

イノベーション特殊研究(生産財のイノベーション)



本科目は、イノベーションマネジメントの中でも生産財企業を中心に学習する。ここでの生産財企業の定義は、顧客が一般消費者ではなく企業が主体の企業である。授業は、①重要事項の講義・全体討議、②事例研究、③受講生による優れた生産財企業の成功要因の分析、の順に進められる。



マーケティング



この科目では、企業のマーケティング活動とその基本概念の理解に焦点を当てる。具体的には、製品、価格、販売チャネル、販売促進の4つの要素を学ぶ。また、ケース分析を通じてマーケティングの基本戦略であるSTPと4Pを深く理解し、ビジネスコミュニケーション能力を向上させることを目的とする。他のマーケティング科目の基盤となる重要な科目である。

ビジネスファイナンス



本科目は企業のファイナンスの中級科目と位置づけ、その理論と実務の概要について学ぶ。講義では、まず財務会計や財務分析の基礎事項を学ぶ。続いて実務でも広く用いられる企業価値評価方法である、DCF法をマスターする。受講者には最終アウトプットとして、自身が勤める会社を分析した「証券アナリストレポート」を作成いただくこととする。

ビジネス会計学



本科目では、財務会計の概要と財務分析について学ぶ。財務会計には財務諸表を作成する側面と財務諸表を利用する側面があるが、後者に力点を置き、財務諸表が示す数値や会計ルールを理解し、ビジネスに活用していくことを主たる目的とする。演習や具体的事例を取入れ、実践的かつ経理や財務の実務経験がない人にとっても理解しやすい内容としたい。

専任教員・客員教員および担当科目

各教員の2025年度担当科目は一部変更となる場合があります。
 決定次第ビジネス研究科ホームページに掲載します。
 教員の履歴・研究業績は、ホームページに掲載しております。併せてご覧ください。

URL : <https://bs.doshisha.ac.jp/>

(ビジネス専攻)



教授

井上 福子 (いのうえ ふくこ)

神戸大学博士(経営学)、インディアナ大学MBA(アントレプレナーシップ専攻)、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・アンド・ポリティカル・サイエンスMSc(比較労使関係および人事管理)
 日本企業に勤務の後、留学を経て、複数の国際機関および大手外資系企業に勤務。外資系企業では、部長職、人事本部長職等、要職を歴任。国際原子力機関(ウィーン本部)の人材計画課長、上級人事担当官を経て現職。

担当科目 <ビジネス専攻> 『組織行動と人的資源管理』『組織マネジメント』『リーダーシップ』『プロジェクト研究基礎・I・II』

専門分野 人的資源管理、組織開発



教授

児玉 俊洋 (こだま としひろ)

東京大学経済学部卒業
 通商産業省・経済産業省で、中小企業政策、地域産業政策を中心に実務と研究の両面に従事。特に、「産業クラスター計画」の原型とされる首都圏西部地域における協議会組織の設立、経済企画庁において「景気ウォッチャー調査」の創設に従事。研究職としては、埼玉大学大学院政策科学研究科助教授、独立行政法人経済産業研究所上席研究員、京都大学経済研究所教授を歴任。日本政策金融公庫特別参与を経て2012年度より現職。

担当科目 <ビジネス専攻> 『中小企業経営』『起業と事業創造』『産業集積と立地戦略』『中小企業経営演習』『プロジェクト研究基礎・I・II』

専門分野 産業クラスター、中小企業



教授

崔 裕眞 (チェ ユージン)

英国ケンブリッジ大学PhD(経済史)、ケンブリッジ大学MPhil(経営学と歴史学)
 英国ロンドン大学 MBA(国際経営戦略)
 日欧米韓でサムスングループ会長戦略秘書室(社内教育・産学連携担当)主任、英国ケンブリッジ大学の入学前高校生向け教育プログラム講師、2007年9月帰国後は一橋大学経済研究所外国人特別研究員(JSPS)およびイノベーション研究センター特任講師、2011年4月より立命館大学MOT大学院准教授・教授およびグローバルリベラルアーツ学部教授、2022年5月より米国の南カリフォルニア(USC)大学経営大学院の客員教授・上席研究員を経て2023年4月より現職。

担当科目 <ビジネス専攻> 『経営戦略』『京都伝統産業と文化ビジネス』『ナレッジマネジメント』『プロジェクト研究基礎・I・II』

専門分野 ナレッジマネジメント、経営戦略



教授

野瀬 義明 (のせ よしあき)

神戸大学大学院自然科学研究科博士前期課程修了、修士(理学)
 筑波大学大学院ビジネス科学研究科博士後期課程修了、博士(経営学)
 1997年に大和総研へ入社。主に上場企業への経営コンサルティングと、M&A案件でのビジネスデューデリジェンスに従事。2008年に大和SMBCキャピタル(現大和企業投資)に転籍。パイアウトファンドの投資担当者として様々な買収案件に参画。2012年からは桃山学院大学経済学部へ転じファイナンスを担当。2016年より現職。

担当科目 <ビジネス専攻> 『基礎会計学・ファイナンス』『ビジネスファイナンス』『ベンチャーファイナンス』『投資戦略』『プロジェクト研究基礎・I・II』

専門分野 コーポレートファイナンスに関する実証分析



教授 ビジネス研究科長

藤原 浩一 (ふじわら こういち)

慶應義塾大学大学院商学研究科商学専攻博士課程修了
 慶應義塾大学大学院修了後、弘前大学人文学部経済学科、福島大学経済学部助教授を経て現職。
 上場企業および地元団体と、各種MBA、MOTプログラムの開発、実行に携わる。

担当科目 <ビジネス専攻> 『ビジネス統計学』『コーポレートファイナンス』『データサイエンス』『プロジェクト研究基礎・I・II』

専門分野 経済学、技術経営、金融工学、統計学



教授

森 良弘 (もり よしひろ)

神戸大学大学院理学研究科化学専攻修士課程修了、博士(工学)(九州大学)、MBA(同志社大学)
 新日本製鐵株式会社の新規事業支援研究部門から、外資系半導体材料メーカー、株式会社堀場製作所を経て、株式会社堀場アドバンステクノにて執行役員として分析計測機器の技術開発マネジメントを担当。
 技術者としての専門分野は分析計測技術および半導体洗浄プロセス技術。
 2022年4月より現職にてイノベーション分野の研究と教育に携わる。

担当科目 <ビジネス専攻> 『イノベーションマネジメント』『ビジネスモデルイノベーション』『オープンイノベーション』『プロジェクト研究基礎・I・II』
 <グローバル経営研究専攻> 『Strategic Management for Innovation and Change』

専門分野 イノベーションマネジメント



教授

山下 貴子 (やました たかこ)

神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程企業システム専攻修了、博士(商学)
 東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻博士後期課程中退、博士(学術)
 流通科学大学商学部、同大学大学院流通科学研究科博士後期課程教授、ヴァージニア大学グーデン・ビジネススクール客員研究員等を経て現職。

担当科目 <ビジネス専攻> 『マーケティング』『マーケティングリサーチ』『消費者行動』『商品・ブランド開発』『プロジェクト研究基礎・I・II』

専門分野 マーケティング、消費者行動



教授

文 世一 (ムン セイル)

立命館大学理工学部土木工学科卒業、京都大学大学院工学研究科博士課程修了、京都大学工学博士、京都大学博士(経済学)。東北大学大学院情報科学研究科助教授、京都大学大学院経済学研究科教授を経て現職。都市の空間構造、交通政策に関する理論的研究を行ってきた。著書に『交通混雑の理論と政策』、東洋経済新報社、2005年、最近の論文として、"Joint provision of transportation infrastructure", Economics of Transportation, 19, 100118, 2019年など。

担当科目 <ビジネス専攻> 『ビジネス経済学』『ミクロ経済分析』『都市経済学』『プロジェクト研究基礎・I・II』

専門分野 都市経済学、交通経済学

〈ビジネス専攻〉



教授

有井 健 (ありい けん)

ブリティッシュ・コロンビア大学MSc (植物学)、マギル大学PhD(生物学)
モントリオール大学(複雑系研究室)、トロント大学(森林動態研究室)にて研究員、立命館アジア太平洋大学教授を経て現職。

担当科目 <ビジネス専攻> 『Green Management in Action』『プロジェクト研究基礎・I・II』

専門分野 Ecology, Environmental Modeling, Sustainability Science



特別客員教授

延岡 健太郎 (のべおか けんたろう)

マサチューセッツ工科大学(MIT)でPh.D(経営学博士)、SM(経営学修士)取得
大阪大学工学部卒業
マツダ株式会社で商品戦略を担当後、神戸大学経済経営研究所教授、一橋大学イノベーション研究センター教授、大阪大学経済学研究科教授を歴任。大阪大学名誉教授、一橋大学名誉教授、神戸大学名誉教授。

担当科目 <ビジネス専攻> 『MOT概論』『消費財のイノベーション』『生産財のイノベーション』『プロジェクト研究基礎・I・II』

専門分野 価値創造とイノベーションのマネジメント

〈寄付教育研究プロジェクト「同志社大学産学連携によるMBA教育機能強化プロジェクト」〉



教授

梅田 昭夫 (うめだ あきお)

ロンドン大学インペリアル・カレッジ大学院修了(経営学修士)
神戸大学大学院経済学研究科博士課程前期課程修了(経済学修士)
りそなグループおよびSCREENホールディングスにおける豊富な実務経験を有する。
りそなホールディングスでの企画部IR室長、コーポレートコミュニケーション部長等の役職に加え、SCREENホールディングスでは長年にわたって常勤監査役を務めた。

担当科目 <ビジネス専攻> 『コーポレートガバナンス』『ビジネス会計学』『会計・監査』『プロジェクト研究基礎・I・II』
<グローバル経営研究専攻> 『Project-based Internship』

専門分野 コーポレートガバナンス、コーポレートファイナンス

〈グローバル経営研究専攻〉



教授

飯塚 まり (いづか まり)

同志社大学(心理学)、スタンフォード大学MBA、MA(開発経済)、京都大学PhD
外資系企業から、世界銀行(ワシントンDC)、アジア経営大学院、立命館アジア太平洋大学を経て現職。INSEAD(仏)やチュービンゲン大学(独)他、客員研究員。アジア各国での経営者トップセミナーを始めとして、多国籍企業や50か国以上出身のMBAを対象とした豊富な教育経験を有する。ゲーツル発のマイナフルネスリーダーシップの公式トレーナー。日本能率協会Kaika Awards 審査委員。日本グローバルコンパクト・アカデミックネットワーク(J-GCAN)会長。同志社大学Well-being研究センター長。著書に『進化するマイナフルネス-ウェルビーイングへと続く道-』(創元社)。

担当科目 <ビジネス専攻> 『ダイバーシティ・マネジメント』『企業経営と良心』
<グローバル経営研究専攻> 『Business and Society in the Global Context』『Responsible Leadership in the Global Context』『People and Organizations』『Critical and Analytical Thinking』『Master Thesis and Research Project I・II・III』

専門分野 経営戦略、組織・人材開発、ビジネス倫理



教授

殷 勇 (イン ユウ)

東北大学大学院経済学研究科経営学専攻博士課程後期修了、経営学博士
山形大学教授を経て現職。現在は中国西北工業大学客員教授。Asian Journal of Management Science and ApplicationsのEditor in Chiefを担当し、The Asian Association of Management Science and Applicationsの会長(2013-2015)も務める。

担当科目 <ビジネス専攻> 『オペレーションズマネジメント』
<グローバル経営研究専攻> 『Operations Management』『Foundations for Sustainable Management』『Operations Management in Asia』『Critical and Analytical Thinking』『Master Thesis and Research Project III』

専門分野 持続可能な生産システム、ものづくり経営学、経営定量分析



教授

大串 葉子 (おおくし ようこ)

佐賀大学大学院経済学研究科(経営学)修士、マンチェスター大学大学院(会計・財務)修士、九州大学大学院経済学研究科(経営学)博士。
新潟大学経済学部助教授、椋山女学院大学現代マネジメント学部教授を経て、2023年9月より現職。

担当科目 <グローバル経営研究専攻> 『Accounting』『Strategic Cost management』『Entrepreneurship』『Business Analysis and Valuation』『Critical and Analytical Thinking』『Master Thesis and Research Project I・II・III』

専門分野 投資経済計算、事業評価、ITマネジメント



教授

須貝 フィリップ (スガイ フィリップ)

早稲田大学PhD、ニューヨーク大学スターンビジネススクールMBA(Marketing, Operations Management)
American Express, Muze Inc, Lightningcast Incのマーケティング・エグゼクティブを歴任し、現在は国内外の企業のマーケティング・アドバイザー、およびマーケティング戦略コンサルタントを務める。『Building Value through Marketing (Routledge, 2020)』と『The Six Immutable Laws of Mobile Business』(John Wiley & Sons, 2012)の2冊を著し、またIvey Business School Publishingより、HOSOO(株式会社細尾)、ネスレ日本、AGL、初音ミク、Walt Disney Internet Groupに関するケーススタディを発表。国際大学国際経営学研究科教授を経て現職。

担当科目 <グローバル経営研究専攻> 『Marketing』『Sustainable and Responsible Marketing』『e-Marketing』『Marketing Research』『Critical and Analytical Thinking』『Master Thesis and Research Project I・II・III』

専門分野 Value, Innovation, Responsible Marketing



教授

吉田 悦章 (よしだ えつあき)

京都大学博士(地域研究)
ハーバード大学留学後、一橋大学商学部卒業。日本銀行、国際協力銀行にそれぞれ10年以上勤務。この間、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科特任准教授、早稲田大学ファイナンス研究センター客員准教授等を兼務したほか、2019~21年にはウズベキスタン共和国情報通信省副大臣を務めた。2022年4月より現職。

担当科目 <グローバル経営研究専攻> 『Finance』『Japanese Business Practices』『Investment in Asia』『Making Sense of the Global Economy』『Critical and Analytical Thinking』『Master Thesis and Research Project I・II・III』

専門分野 国際金融、グローバルビジネス、イスラーム金融/ビジネスとSDGs経営、フィンテック

〈グローバル経営研究専攻〉



准教授

奥平 寛子 (おくだいら ひろこ)

大阪大学大学院経済学研究科博士後期課程修了、経済学博士
岡山大学大学院社会文化科学研究科准教授、University College London 研究員(日本学術振興会海外特別研究員として派遣)を経て現職。膨大な政府統計を用いたデータ分析や行動経済学に知見を活かした実験など、幅広いアプローチから実証分析を行う。最近の主な論文として、「高齢労働者の増加と企業の調整行動」(奥平寛子, 滝澤美帆)、日本経済研究、近刊; "Working from Home: Its Effects on Productivity and Mental Health" (Ritsu Kitagawa, Sachiko Kuroda, Hiroko Okudaira, Hideo Owan), PlosOne, forthcoming; s"Oxytocin-Trust Link in Oxytocin-Sensitive Participants and Those Without Autistic Traits" (Hirofumi Kurokawa, Yusuke Kinari, Hiroko Okudaira, Kiyotaka Tsubouchi, Yoshimichi Sai, Mitsuru Kikuchi, Haruhiro Higashida, Fumio Ohtake), Frontiers in Neuroscience 15.

担当科目 <グローバル経営研究専攻> 『Business Economics』『Sustainable Human Resource Management』『Creativity in Organizations』『Human Resource Management in Asia』『Critical and Analytical Thinking』『Master Thesis and Research Project I・II・III』

専門分野 労働経済学、応用ミクロ計量経済学、人事の経済学



教授

Arif IQBALL (アリフイクバル)

ノースウェスタン大学修士(製造工学)、ミシガン大学MBA(国際ビジネス)及び修士(アジア/日本研究)、ウォートン・スクール・オブ・ビジネス(エグゼクティブ・ディベロップメント・プログラム)修了。
様々な業界で25年以上のキャリアを積み、著名企業で要職を歴任。ペネッセのグローバルCFO兼コーポレートシニアバイスプレジデント等、日本、中国、米国の上場・非上場企業15社以上の取締役経験あり。アジア市場の深い洞察力かつグローバルな視点とエグゼクティブコーチとしての知見から人間中心のアプローチによるビジネス課題の解決と変革型リーダーシップを提唱。2017~24年には関西外国語大学教授(経営学)

担当科目 <グローバル経営研究専攻> 『Strategic Management』『Professional Development』『Project-based Internship』『Understanding Japanese Corporations』『Master Thesis and Research Project I・II・III』『Critical and Analytical Thinking』

専門分野 Leadership Effectiveness; High Performance Leadership Teams; Asian Leadership; Strategic Management.



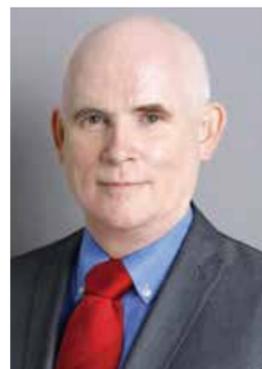
准教授

正田 ヴェラ パオラ (ショウダ ヴェラ パオラ)

筑波大学大学院博士課程修了
2021年より神戸大学経済経営研究所および計算社会科学センターにて准教授を務める。人工知能の専門知識を活かし、社会科学と工学の両面からデータサイエンスの研究に取り組んでいる。

担当科目 <グローバル経営研究専攻> 『Information Technology/Management』『Business Research Method』『Critical and Analytical Thinking』『Master Thesis and Research Project II』

専門分野 感情工学、データ科学、計算社会科学



教授

Robert William ASPINALL (ロバート ウィリアム アスピノール)

MA (Politics) University of Manchester; MA (Japanese Studies) University of Essex; DPhil (Politics) University of Oxford.
Prior to joining Doshisha University, Dr. Aspinall was a professor in the Faculty of Economics, Shiga University, Japan. He is the author of Teachers Unions and the Politics of Education in Japan (SUNY, 2001) and International Education Policy in Japan in an Age of Globalisation and Risk (Brill, 2013).

担当科目 <グローバル経営研究専攻> 『Writing Skills for Effective Communication』『Master Thesis and Research Project I・II・III』

専門分野 The Political and Educational Systems of Japan and the UK



教授

和泉 真澄 (いずみ ますみ)

MA (Political Studies) Queen's University at Kingston; 同志社大学大学院アメリカ研究科 博士(アメリカ研究)
2000年より同志社大学言語文化教育研究センター専任講師、准教授、教授を経て、2013年より同志社大学グローバル地域文化学部教授。
太平洋戦争中の在外日本人・日系人の体験に関する国際共同研究 Past Wrongs Future Choices リサーチフェロー。
主な著書は『日系カナダ人の移動と運動—知られざる日本人の越境生活史』(小鳥遊書房、2020年)、The Rise and Fall of America's Concentration Camp Law: Civil Liberties Debates from the Internment to McCarthyism and the Radical 1960s (Temple University Press, 2019)、『日系アメリカ人強制収容と緊急拘禁法—人種・治安・自由をめぐる記憶と葛藤』(明石書店、2009年)。最新の共著に『私たちが声を上げるとき—アメリカを変えた10の問い』(集英社新書、2022年)がある。

担当科目 <グローバル経営研究専攻> 『Master Thesis and Research Project I, II, III』

専門分野 国際人口移動、北米移民・人種関係、安全保障と法と市民的自由



客員教授

大上 高充 (おおうえ たかよし)

横浜市立大学商学部卒業、BOND大学(豪州)経営学修士課程修了。元オムロン株式会社 執行役員グローバル理財本部長。同社中国本社戦略部部長、制御機器事業 経営管理室長/企画室長を歴任。ROIC逆ツリーやポートフォリオマネジメントの導入・展開を主導。第3回企業価値向上大賞を受賞するなど、企業価値4倍向上に貢献した。現在は、独立行政法人 中小企業基盤整備機構 東工大横浜ベンチャープラザのチーフインキュベーションマネージャーとして、スタートアップの育成、エコシステム作りに取り組む。

担当科目 <ビジネス専攻> 『企業価値経営』

専門分野 経理・財務・経営管理



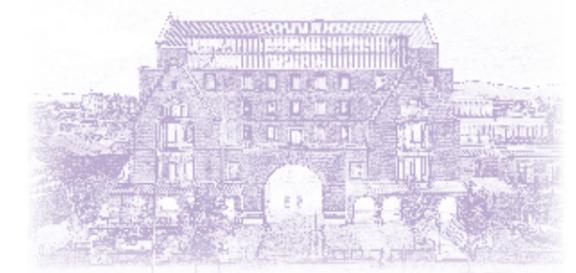
客員教授

河南 順一 (かわみなみ じゅんいち)

同志社大学商学部卒業、アリゾナ州立大学大学院W.P. Carey School of Business MBA
IT・外食業界等でIT・マーケティング・コミュニケーションを融合した戦略の策定・展開を担い、CEOとともに企業価値創造の実行に携わった。日本マクドナルド株式会社、アップルジャパン株式会社、株式会社すかいらーく、サンマイクロスシステムズ株式会社、モービル石油株式会社等に勤務。マーケティングおよびコミュニケーション部門のディレクターとしてマーケティング・ブランドマネジメント・広告宣伝・広報・危機管理・イベント・エンジェリスト施策等を統率、石油会社の営業および情報システムにも従事した。厳しい経営環境下での戦略的な企業再生にも携わり、アップルでは、“Think different”を掲げたブランド戦略の展開、マクドナルドでCEOコミュニケーションの一新を担うなど、ブランド再生や企業イメージの刷新を牽引した。現在はMarcom synergy Gen Co.,Ltd Representative Director。

担当科目 <ビジネス専攻> 『広告・コミュニケーション』
<グローバル経営研究専攻> 『Creativity and Communication』

専門分野 マーケティング、コミュニケーション、ブランディング、危機管理



兼任教員・客員教員・嘱託教員および担当科目（2024年度開講科目）

※兼任：同志社大学に所属／嘱託：他大学や学外の機関・企業に所属、その他

各教員の2025年度担当科目は一部変更となる場合があります。
決定次第ビジネス研究科ホームページに掲載します。
教員の履歴・研究業績は、ホームページに掲載しております。併せてご覧ください。

URL：https://bs.doshisha.ac.jp/

〈ビジネス専攻〉

嘱託教員

天野 祐一郎
『M&A戦略』
山田コンサルティンググループ株式会社
コーポレートアドバイザー事業本部常務執行役員本部長

橋爪 健太
『M&A戦略』
山田コンサルティンググループ株式会社
コーポレートアドバイザー事業本部事業部長

東谷 典尚
『戦略的企業再生』
あかつき教育図書株式会社 取締役

飯田 浩司
『リーガルマインド』
明治学院大学 法と経営学研究科教授

石原 克治
『企業の社会的・国際的役割』
京都大学大学院 経営管理研究部特別教授

金武 創
『観光マーケティング』
京都橋大学 経済学部教授

勝連 城二
『プロジェクトマネジメント』
PMイノベーションオフィス51
プロジェクトマネジメント 組織開発
人材育成コンサルティング 代表

宮井 秀明
『税務戦略』
BTJ税理士法人(代表社員) 公認会計士・税理士

森脇 肇
『リーガルマインド』
弁護士法人興和法律事務所 弁護士

宗平 順己
『DXビジネス戦略』
『イノベーション特殊研究(サービスデザイン論)』

武庫川女子大学 経営学部教授
Kyotoビジネスデザインラボ 代表

村上 政俊
『現代地政学と経済安全保障』
皇學館大学 現代日本社会学部准教授

内藤 浩樹
『知財マネジメント』
大阪工業大学 大学院知的財産研究科教授

中森 孝文
『京都の知恵ビジネス』
龍谷大学 政策学部教授

島 吉伸
『管理会計』
『コストマネジメント』
近畿大学 経営学部教授

島ノ内 英久
『中小企業経営コンサルティング』
『中小企業経営演習』
株式会社ウィレンス 代表取締役

新村 猛
『リスクマネジメント』
がんこフードサービス株式会社代表取締役代表執行役員

徳山 美津恵
『消費者行動』
関西大学 総合情報学部教授

殿村 美樹
『地域ブランド戦略』
株式会社TMオフィス 代表取締役兼PRプロデューサー

筒井 肇
『マクロ経済分析』
筒井金融経済研究所 代表

安酸 建二
『会計・ファイナンス特殊研究(原価計算)』
近畿大学 経営学部教授



〈グローバル経営研究専攻〉

兼任教員

高橋 宏司
『Business Law』
同志社大学法科大学院 司法研究科教授

Anya DOI-BENSON
『Cultural and Creative Industries』
同志社大学 国際教養教育院准教授

客員教員

Joseph HALDANE
『Global Intensive Subject 2』
The International Academic Forum (IAFOR) 会長

Wenkai LI
『Operations Management』
国際大学 国際経営学研究科専任教授

嘱託教員

Bishnu Kumar ADHIKARY
『Statistics』
『Environmental Accounting』
兵庫県立大学 国際商経学部教授

佐藤 治子
『Economics for Sustainable Development』
大阪大学大学院 国際公共政策研究科特任教授

C. Jeffrey CHAR
『Global Intensive Subject 1』
ジェイ・シード株式会社 代表取締役

杉山 浩一
『Global Intensive Subject 3』
有限会社杉山マネージメント開発 代表取締役社長

David MARUTSCHKE
『Marketing in Asia』
大阪経済大学 経営学部准教授

Carlos TARRERO
『Cultural Tourism』
ザ・リッツカールトン京都 総支配人

佐土井 有里
『Knowledge and Innovation Management』
名城大学 経済学部教授

Francesco UKON
『The Business of Fashion Industry』
ディーゼルジャパン株式会社 Senior Finance Director

『MOT特殊講義』(京田辺校地開講) 担当者

廣垣 俊樹
『制御システム』
同志社大学 理工学研究科教授

小野 景子
『情報技術』
同志社大学 理工学部准教授

大谷 直毅
『ナノテクノロジー』
同志社大学 理工学研究科教授

柴田 一成
『地球環境科学』
同志社大学 理工学部特別客員教授

北岸 宏亮
『生命科学』
同志社大学 理工学部教授



公開講座・特別講座（2023年度実績）

一般の方にもご参加いただける公開講座や授業見学のほか、ビジネス研究科に属していることにより特別に参加できるセミナーや特別講座などを幅広く開催しています。

ビジネス研究科所属の教授陣が、各分野のホットな話題について、多彩な切り口と的確な分析で今後の展望をご提示します。時に、本研究科での授業を疑似体験していただけます。また、多方面の企業との交流セミナーや他大学講師の特別講義など、幅広い知識修得や価値創造を体感することができる画期的な企画を開催しています。今後のイベントについては決定次第、ビジネス研究科ホームページに掲載します。



MBA入門シリーズ講座

- | | |
|--|---|
| ● ビジネス統計学
実施日：2023年5月28日(日) | ● ビジネスファイナンス
実施日：2023年11月5日(日) |
| ● 経営戦略
実施日：2023年6月4日(日) | ● マーケティング・コミュニケーション
実施日：2023年11月12日(日) |
| ● マーケティング・コミュニケーション
実施日：2023年6月11日(日) | ● 人的資源管理
実施日：2023年11月19日(日) |
| ● ベンチャー企業経営
実施日：2023年7月2日(日) | ● イノベーションマネジメント
実施日：2023年12月3日(日) |
| ● ビジネスファイナンス
実施日：2023年7月16日(日) | ● 経営戦略
実施日：2023年12月10日(日) |
| ● イノベーションマネジメント
実施日：2023年7月23日(日) | ● 事業創造マネジメント
実施日：2023年12月17日(日) |
| ● 人的資源管理
実施日：2023年7月30日(日) | ● 管理会計
実施日：2023年12月17日(日) |
| ● データサイエンス
実施日：2023年10月29日(日) | |

最新情報をこちらから
ご覧いただけます



寄付教育研究プロジェクト

寄付教育研究プロジェクトは、個人、法人、企業やその他学外機関からの寄付を受けて、本学の教育研究活動を活性化し、多様化することを目的として設置するプロジェクトです。研究センターとともに独創的な研究拠点の形成を目指しています。また、個性豊かな授業科目や公開講座などの寄付講座も開設しています。

■産学連携によるMBA教育機能強化プロジェクト

株式会社 SCREEN ホールディングスの協力を得て、先端技術分野のグローバル事業および経営についての教育・研究を展開するプロジェクトです。国際的に評価されるビジネススクールの新たな産学連携モデルの形成を目指しています。

- 公開講座
「同志社ビジネススクールの産学連携4年間の総括」
(寄付教育研究プロジェクト「産学連携によるMBA教育機能強化プロジェクト」)
2023年度実施報告セミナー
実施日：2024年3月12日(火)
- 特別セミナー
「ジョブ別インターンシップの日本社会への貢献を考える」
実施日：2024年3月19日(火)



MBA公開講座

主催：同志社大学大学院ビジネス研究科(同志社ビジネススクール)
後援：京都リサーチパーク株式会社

- 中小企業の経営～学ぶことの意義とは～
実施日：2023年7月23日(日)



事業展開力養成実践講座 ～持続的成長のための事業展開戦略を考える～

主催：公益財団法人京都産業21、同志社大学大学院ビジネス研究科
対象：京都府内中小企業の企業経営者、経営幹部層及びその候補者等

- | | |
|---|--|
| ● 第1回「オリエンテーション」「事業定義の枠組み」
実施日：2023年10月3日(火) | ● 第5回「事業展開に必要な会計・財務の知識①」
実施日：2023年10月31日(火) |
| ● 第2回「経営理念と事業戦略」
実施日：2023年10月10日(火) | ● 第6回「事業展開に必要な会計・財務の知識②」
実施日：2023年11月7日(火) |
| ● 第3回「事業を展開するための組織づくり①」
実施日：2023年10月17日(火) | ● 第7回「最終レポート発表」「学習継続の案内」
実施日：2023年11月14日(火) |
| ● 第4回「事業を展開するための組織づくり②」
実施日：2023年10月24日(火) | |

《実践》次世代女性リーダー育成研修2023 ～京都府女性中核人材育成研修～

主催：輝く女性応援京都会議(事務局：京都府、京都市、京都労働局、京都商工会議所) 共催：関西女性活躍推進フォーラム
実施・運営：京都商工会議所 協力：同志社大学大学院ビジネス研究科

- 第1回「変革の時代の経営戦略と実行
～コアコンピタンスを軸とする～」
実施日：2023年9月1日(金)
- 第2回「卒業生の変革達成事例と今後の展望」
実施日：2023年10月18日(水)
- 第3回「生涯現役の視点から女性活躍を考える」
実施日：2023年11月14日(火)
- 第4回「企業活性化とカルチャー変革
～原点に立ち返り“未来”を描く～」
実施日：2023年12月5日(火)
- 第5回「チェンジマネジメントのためのリーダーシップ
～経営組織と人的資源管理～」
実施日：2024年1月16日(火)
- 第6回「ディスラプション(破壊的創造)の時代におけるリーダー像」
実施日：2024年2月9日(金)



同志社MOT(Management of Technology)コース (ダブル・ディグリー)

3年間でビジネス修士(専門職)と修士(工学/理学)の2つの学位が取得できます

同志社大学大学院ビジネス研究科と理工学研究科では、技術を経営に生かし企業のイノベーションを促進する優れた人材を養成するため、高度で実践的な教育研究を行う技術経営コースを設けています。本コースは、両研究科における履修課程をシームレスに結ぶことにより、3年間でダブル・ディグリー取得を可能とするもので、本学におけるMOT教育の水準向上に資するとともに、産業界からのMOT人材育成の要望に応えるものです。

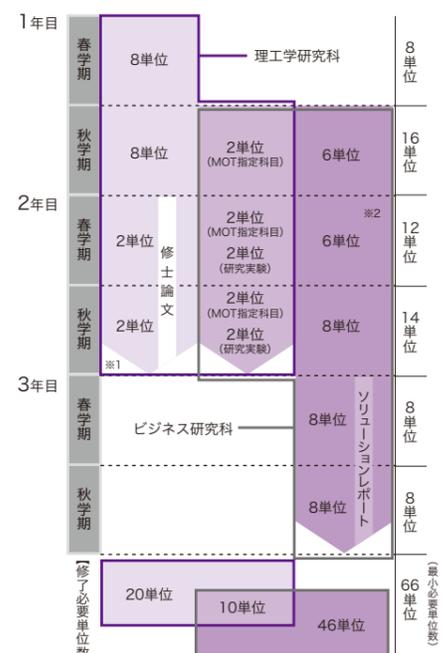
コースの概要

理工学研究科に入学した年度の7月頃に本コースへの出願を行います。入学試験では面接試験により、本コース履修に必要な知識や適性を判定します。

本コースでは、理工学研究科を2年で修了した後に、ビジネス研究科へ2年次生として転入学していただきます。ただし、理工学研究科在籍中でもビジネス研究科の科目を並行して履修することになります。(右の単位習得例を参照)

なお、本コース修了者には、理工学研究科を修了した時点で修士(工学)もしくは修士(理学)の学位が授与され、引き続きビジネス研究科に進学し修了した時点でビジネス修士(専門職)の学位が授与されます。

単位修得例 理工学研究科修了後ビジネス研究科へ進学する場合



※1 理工学研究科在籍中にMOT分野の指定科目を履修した場合は、ビジネス研究科修了に必要な単位数に6単位を上限として参入されます。また、理工学研究科在籍中に研究実験I・II(計4単位)を履修しなければなりません。これは理工学研究科、ビジネス研究科とも修了に必要な単位数に参入されず。

※2 理工学研究科在籍中に、ビジネス研究科設置科目を履修できます。これは理工学研究科の修了に必要な単位数には参入されませんが、ビジネス研究科に転入学した際には既修得単位としてビジネス研究科修了に必要な単位数に参入されます。

国際連携プログラム

ビジネス研究科は、下記のような大学院との間で単位相互交換等の連携を行っています。詳細はビジネス研究科事務室へお問い合わせください。

スタヴァンゲル大学 ビジネススクール
University of Stavanger, UIS Business School (Norway)

2005年に設立されたノルウェーのスタヴァンゲル市にある公立大学。スタヴァンゲル大学は、設立より学部学科増設、国際交流の各分野の推進に力を入れており、海外からの学生の受け入れを積極的に行なっています。

テュービンゲン大学 経済社会学研究科
Faculty of Economics and Social Sciences, University of Tübingen

1477年創立。ドイツ政府によりエクセレンス・イニシアティブに採択された、ドイツにおいて最も権威のある大学のひとつです。

国立台湾師範大学管理學院
Taiwan National Normal University, College of Management (Taiwan)

1946年設立。台湾中等教育に携わる優秀な教師陣の育成を主な出発点とする。管理學院は2008年に設立され、台湾で最も新しい国立ビジネススクールです。

ベルリン自由大学 経営・経済学部
Free University of Berlin, School of Business and Economics

1948年に設立されたドイツのベルリン市にある国立総合大学。ベルリン大学の19世紀以来の伝統を汲むドイツを代表する大学のひとつです。2019年、ベルリン大学連合の1校として、ドイツ連邦政府の研究助成プログラム「エクセレンス・ストラテジー」におけるエクセレンス大学の1つに選定されました。

ヨーテボリ大学大学院
School of Business, Economics and Law, University of Gothenburg

19世紀、スウェーデン第2の都市、ヨーテボリに設立。独立したビジネススクールとして国際的視野を持つ人材育成を目標とする、由緒ある大学院です。

中国人民大学商学院
Renmin University of China School of Business

中華人民共和国建国後の1950年に設立された中国最初の大学であり、人文社会学を主とする国家重点大学のひとつ。商学院は、EQUISとAACSBという2つの国際的な認証を受けたビジネススクールです。

ガジャ・マダ大学 経済ビジネス学部
Universitas Gadjah Mada, Faculty of Economics and Business (Indonesia)

インドネシア最古かつ最大の国立大学院で、18学部を持つ最高峰の大学。経済ビジネス科は、インドネシアで最高のビジネスプログラムを提供していることで広く知られています。

グローバル経営研究専攻 (修士課程)

グローバル経営研究専攻の特色

2014年度、ビジネス研究科では、英語で学位を取得することができるグローバルMBAコースをさらに発展・充実させ、新たに「グローバル経営研究専攻」を設けました。本専攻は、英語での授業や多様な留学生と触れ合うグローバルな環境を提供し、MBA取得に意欲のある日本人学生と、世界各国からの留学生とが共に学び、将来は日本企業等の国際化に貢献することが期待されています。また、社会的使命を持つ国際ビジネスリーダーとして様々な課題に対応できる経営知識修得を目指します。



人材養成目的

ビジネス研究科グローバル経営研究専攻修士課程は、グローバル化の中で社会的使命を持ち、サステナビリティ、文化と創造性ビジネス、アジアビジネスへの理解と研究を通して、国際ビジネスリーダーとして必要な視点や能力を身に付けて、日本と母国の経済発展を支える人物の養成を目的とする。

中心的学問分野

Sustainability サステナビリティ	Culture and Creativity 文化と創造性ビジネス	Business in Asia アジアビジネス
経済発展と環境問題、環境マネジメントの課題などを包摂し、実際の経営と地球環境の諸問題を探求する。	ポップカルチャー、ファッション、アニメ、伝統文化などの産業を中心に、多様な文化、発展の傾向を比較分析し、社会との関係性を解明する。	日本を含むアジア各国固有の経営システムへの理解、比較研究を軸に、アジアビジネスが世界に果たす役割を制度論的に追及する。

グローバル経営研究専攻のより詳しい内容に関しては…

URL <https://gmba.doshisha.ac.jp/en/> E-mail ji-gmba@mail.doshisha.ac.jp

学習環境

「学びのオアシス」を目指して

教室やラウンジ、図書室などの学習環境を整備しハード面でも充実したサポート体制で学習を支援しています。コロナ禍においては、対面講義とオンライン講義、およびこの2つの形式を融合させたハイブリッド方式の3形態で講義を実施しました。教室内では密を回避するため「コロナ定員」を定めるなど、ソーシャルディスタンスを確保し安心して受講できる環境を整えています。



対面式階段教室
全席に電源コンセントが備え付けられています。

最新の設備をもつ学舎 通学に便利な立地

同志社大学今出川校地の北西に位置する寒梅館の2階・3階に、ビジネス研究科の本校があります。京都駅から地下鉄で10分という好立地にある学舎は、忙しいビジネスパーソンには好適です。

寒梅館2階には教室が、3階にはラウンジ、プロジェクトルーム、図書室、教員研究室、事務室等があります。また、寒梅館は大小様々な会議室やイベントホール、レストランなどの施設も備えています。



土日も営業している寒梅館レストラン

教室

教室は、対面式の階段教室で、学生と教員が、あるいは学生同士がコミュニケーションをはかりやすいように設計されています。すべての教室で無線LANが使用できるほか、プロジェクター等の機器も完備されています。



受講者数に合わせてられるような様々なタイプの教室があります。

24時間利用できる専用スペース 知的な交流空間

寒梅館3階のビジネス研究科専用スペースには、ラウンジやプロジェクトルーム、図書室などの施設があり、24時間・365日利用可能です。勤務後に立ち寄り学習する学生も見られます。深夜まで学習する学生のためのセキュリティ管理も万全です。ここは、学習を効果的に行うための機能性だけでなく、知的な交流空間としての雰囲気を大切に考えた設計となっています。(随時見学も可能です)



ラウンジ

もうひとつの議論の場 ラウンジ・プロジェクトルーム

様々なキャリアを持つ学生が、教室を離れて自由に議論ができるもうひとつの交流空間、それがラウンジとプロジェクトルームです。

ラウンジには、数名のグループで議論を行ったり、データベースを利用しながら意見交換ができるようLANを完備した大小多数のテーブルが置かれています。また、個人専用のロッカーも設置されています。

プロジェクトルームでも、LANやプロジェクターを利用して議論やグループワークを行うことができ、ラウンジと同様、日曜や祝日も活発に利用されています。



ラウンジ



プロジェクトルーム

24時間利用可能な専用図書室

経営戦略、マネジメント、マーケティング、会計、ファイナンス、情報、その他関連分野の図書・雑誌等を所蔵しています。ビジネス研究科学生専用のデスクトップパソコンや、有線・無線のLANも完備され、蔵書検索や各種オンラインデータベースの利用も可能です。静かで広々とした閲覧スペースには、58席の閲覧席が設置されています。



図書室



図書室 パソコンコーナー

大阪サテライト・キャンパス

働きながらMBA取得を目指す社会人にとって、オフィスからキャンパスまでの距離や移動時間は重要なポイントです。ビジネス研究科では、今出川校地（寒梅館）のほかに、大阪（梅田）のサテライト・キャンパス内に教室を設け、大阪付近に勤務している人にも学びやすい環境を整えています。

大阪サテライト・キャンパスでは、平日の夜間（6限・7限18:25～21:35）に今出川本校と同じ教員による同じ授業を開講しています。

大阪サテライト・キャンパスには、教室のほか、パソコンを設置したラウンジや、教科書や専門書、辞書などを配備した閲覧室があり、学習をサポートしています。



大阪サテライト・キャンパス



大阪サテライト・キャンパス パソコンコーナー

シニアアシスタント (SrA) 制度

ビジネス研究科修了後も講義に参加し、最新のビジネス教育を受けることができる充実したフォローアップ制度です。社会の様々な分野で活躍している修了生が講義に参加することで議論の高度化、活性化に繋がると共に、修了生と現役生そして教員間の交流による新たなネットワークの構築が期待できます。

2025年度入試概要 ビジネス研究科ビジネス専攻（専門職学位課程）

募集人数 30名

修業年限

2年を標準としますが、3年修了もできます。

入試概要

■ 対象（出願資格）

大学卒業またはそれと同等の学力※を有し、入学時に原則として3年以上の実務経験を有する方。

※出願に先立って出願資格の認定が必要です。所定の期日までに申し出て、出願資格の認定審査を受けてください。

■ 入学者選抜

第1次選考(書類選考)／第2次選考(口述試験)：第1次選考合格者について行います。

■ 入学試験日程

項目	秋期実施入試	春期実施入試
出願期間	2024年7月29日(月)～8月5日(月)	2025年1月7日(火)～1月14日(火)
第1次選考	選考結果を2024年8月31日(土)付で、本人あてに郵送します。	選考結果を2025年1月25日(土)付で、本人あてに郵送します。
第2次選考	2024年9月14日(土)、15日(日)のうち、大学が指定するいずれか1日。	2025年2月8日(土)、9日(日)のうち、大学が指定するいずれか1日。
合格者発表	2024年9月20日(金)	2025年2月14日(金)

上記入学試験のほか、ビジネス研究科ビジネス専攻では「企業・団体等推薦入試」「本学学部在学生推薦入試」および「外国人留学生入試(留学生別科生推薦を含む)」を設けています。出願資格、日程等が異なりますので、それぞれの入試要項(ホームページからダウンロード可)でご確認ください。

■ 企業・団体等推薦入試

所属企業等よりビジネス研究科への派遣の推薦を受けた方を対象に「企業・団体等推薦入試」を実施しています。「企業・団体等推薦入試」では、出願の日程や要件が上記の入試と異なりますので、「企業・団体等推薦入試要項」(ホームページからダウンロード可)でご確認ください。

■ 本学学部在学生推薦入試

本学の社会学部・法学部・経済学部・商学部・政策学部在学生で学部長推薦を受けた方を対象とし、若干名受入れます。詳しくは、「学部在学生推薦入試要項」(ホームページからダウンロード可)をご確認ください。学部長による推薦書については所属の学部事務室へお問い合わせください。

■ 外国人留学生入試（本学留学生別科生推薦を含む）

詳しくは、「同志社大学大学院外国人留学生入試要項」(ホームページからダウンロード可)をご確認ください。

■ ビジネス研究科グローバル経営研究専攻（修士課程）(本パンフレットP.25参照)

上記入試制度以外にグローバル経営研究専攻(募集人数45名)の入試を設けています。

詳しくはホームページ(<https://gmba.doshisha.ac.jp/en/>)を参照してください。

入試説明会

ビジネス研究科では「オープンスクール」(入試説明会、模擬授業、個別相談、施設見学他)、「入試説明会」および「授業公開」などを行っています。日程等はホームページにてご確認ください。また、本研究科の授業は、「MBA公開講座」や「MBA入門シリーズ講座」(本パンフレットP.22-23参照)でも疑似体験していただけます。

学費

■ 学生納付金

2025年度入学生の学費および諸会費については、決定次第大学ホームページで公表します。

(https://www.doshisha.ac.jp/admissions_graduate/procedure/pgs/index.html)

(参考) 2024年度入学生の年間標準学費(修了必要単位数)は次の通りです。

2年修了の場合の標準学費 (単位:円)			3年修了の場合の標準学費 (単位:円)			
	第1年次	第2年次	入学金	第1年次	第2年次	第3年次
入学金	200,000		入学金	200,000		
単位授業料	1,212,000 (24単位)	1,111,000 (22単位)	単位授業料	2,323,000 (46単位)		
教育充実費	227,000	227,000	教育充実費	227,000	227,000	113,500
総計(2年間)	2,977,000		総計(3年間)	3,090,500		

※第2年次に卒業生団体であるDBSネットワークの会費25,000円(終身会費)を徴収します。詳細につきましては、DBSネットワークに直接お問い合わせください。お問い合わせ先 E-mail: info@db-network.com

奨学金制度

名称	種類	金額	対象		採用 [出願 (*1)]	願書 交付	出願 期間 (*2)	採否 決定	備考
			家計基準	成績基準					
同志社大学 短期貸付金	貸与 (無利子)	①一般貸付 30,000円以内 ②特別貸付100,000円以内	やむを得ない事情で、一時的に生活費支弁が困難になった者		①0 ②0		緊急の場合に随時 (事務室開室時間)		一般貸付の返還は3か月以内、特別貸付は10か月以内の月賦返還
日本学生支援機構 大学院 第一種奨学金	貸与 (無利子)	月額 下記金額から選択制 50,000円 80,000円 88,000円	本人および配偶者の 収入金額の合計額 299万円以下	成績が特に優れ、 学術研究者として 適格と認められる者	第一種 21 [21]	3月 下旬 ～	4月 月上旬	7月 月上旬	標準修業年限まで貸与 借用総額により異なるが修了後 10～20年以内に返還 新生入生には、初回振込時、10万円、 20万円、30万円、40万円、50万円 から選択して増額可能な制度あり 第二種奨学金の利率の上限は3% 外国人留学生は出願不可 第一種奨学金には「特に優れた業 績による返還免除」制度(「採用時 返還免除内定」制度含む)あり
日本学生支援機構 大学院 第二種奨学金	貸与 (有利子)	月額 下記金額から選択制 50,000円 80,000円 100,000円 130,000円 150,000円	本人および配偶者の 収入金額の合計額 536万円以下	成績が平均水準以上 で、特定分野にお いて特に優れた 資質能力があると 認められる者	第二種 9 [16]	9月 月上旬 ～	9月 月中旬	12月 月上旬	

(*1)採用者数[出願者数]は2023年度実績。専門職学位課程の採用者数。

採用人数に限度があるため、上記基準内であっても採用されない場合があります。

(*2)詳しい出願時期、出願方法に関しては、出願のしおりや本学奨学金ウェブサイト等にて必ずご確認ください。

教育訓練給付制度

■ 専門実践教育訓練給付について

ビジネス研究科ビジネス専攻(専門職学位課程)は、2018年度より「専門実践教育訓練給付金制度」の対象講座として指定されています。

この制度は、一定の条件を満たす雇用保険の被保険者(在職者)、または被保険者であった方(離職者)が、厚生労働大臣の指定する専門実践教育訓練を受講し修了した場合、本人が教育訓練施設に支払った教育訓練経費の一部(最大112万円)をハローワークから支給する制度です。ただし、対象は本専攻の**2年履修生**に限られます。また、雇用保険の状況により支給を受けられない場合もありますので、詳細については本研究科ホームページでご確認の上お近くのハローワークにてお尋ねください。

■ 人材開発支援助成金の利用について（ビジネス専攻に入学する従業員の学費を支援される事業主の方へ）

ビジネス専攻(専門職学位課程)が、2018年度より専門実践教育訓練給付金制度の対象講座となったことに伴い、本専攻に入学する従業員の教育訓練費用を負担する事業主で一定の要件を満たす場合は、人材開発支援助成金を受給することができます。

人材開発支援助成金とは、事業主が、雇用する労働者に対して職務に関連した専門的な知識および技能の習得をさせるための職業訓練などを計画に沿って実施した場合や人材育成制度を導入し労働者に適用した際に、訓練経費や訓練期間中の賃金の一部等を助成する制度です。同制度の詳細については、本研究科ホームページまたは厚生労働省ホームページでご確認ください。

科目等履修生

ご自分が現在もっとも必要だと思われる科目を重点的に選択する機会を広く提供するために設けられた単科受講制度です。修得した科目は単位認定され、この単位は将来仮にビジネス研究科へ進学した場合、一定の条件のもとで修了に必要な単位として認定されます。これまでも科目等履修生として授業を履修した後、ビジネス研究科に進学した学生がすでに多く在籍しています。

「中小企業・地域経営」履修証明プログラム

企業経営に関する経営戦略、会計、金融、マーケティングなどの幅広い専門知識とその実践力を養成する専門職大学院としての特徴と「中小企業・地域経営」に関する高度な専門性と実践応用力を追求できるというビジネス専攻の特徴を活かし、中小企業や地域の課題を解決するための企画・立案力および実践力を強化できる履修証明プログラムを提供しています。

修了生からのメッセージ

DBSの授業は教員や学生とのディスカッションを通して学びを深めることが多く、様々なバックグラウンドを持つ受講生とともに議論することで知恵を磨き、高めることができました。また、授業とあわせて取り組んだソリューションレポートの執筆が自身にとって有用な経験となったことは疑いありません。ビジネスの現場では、1つの課題に取り組む期間は長くても数ヶ月程度のところ、SRでは1年間をかけてビジネス課題と向き合うこととなります。これを論文という形式に沿って行うことで、的確に課題を切り出し、解決方法を検討して実証するという一連のプロセスを体系的に身に付けることができ、ビジネスにおける日常的な課題との向き合い方を見直すことに繋がりました。

年齢・職業を問わず様々な場面で活躍する学生達と同じ教室で学ぶこともDBSの特徴ですが、中でもグローバル経営研究専攻の学生と交流をもてたことは大きな経験となりました。留学生達の考え方や母国での経験などを知る機会を得ることができただけでなく、帰国した卒業生ともオンラインで交流・相談を行う関係を築けたことで、かけがえのない友人を得ることができました。

講義によってビジネスに関する学びを得ることに留まらず、SRの執筆や友人たちとの交流などを通じた成長は「良心教育」を掲げるDBSならではの学びです。多くの方がこうした機会に触れるべく、DBSの門戸を叩くことを期待しています。

大学卒業後オーストラリアにあるビジネス大学院へ進学しましたが、クラスメイトの大半が社会人でした。当時は実務経験がなかったため授業にもクラスメイトとの会話にもついていけず悔しい思いをしました。あれから11年、今一度ビジネススクールに挑戦したいと思い当時の上司へ相談した際、「今の日本企業の多くは実務経験が豊富な者がトップに立つが、これからはビジネス理論を理解し応用できる者が有利に立つ」と背中を押され、MBAへの入学を決意しました。関西には様々なビジネススクールがありますが、DBSは人間を尊重し企業や組織の成長を支えるリーダーの育成を掲げ、経済、マネジメント、財務・会計、組織、戦略、マーケティングなど幅広く学習できます。その点に魅力を感じ、DBSを選びました。

各授業では世界的に認知されている理論を数多く学び、それらを自社の課題解決にどう適応させるかを考え発表するといった流れが多く採用されており、自社課題を多角的に検討し自分なりのソリューションを導くトレーニングは、論理的思考を鍛えるうえで役に立ちました。また、DBSにはシニアアシスタントという制度があり、同期や後輩のみならず修了生とも交流する機会が多数あります。私がDBSを修了出来たのは、彼ら・彼女らからたくさん刺激を受け、自分1人では決して行けなかった高みへと引き上げられたからです。この繋がりがこそ、私がDBSで得た財産です。仕事と勉強の両立は容易ではありませんが、もしそのような環境を探しているのであれば、DBSをお勧めします。

「MBAの講義についていけるだろうか、集大成であるソリューションレポートを書き上げることができるだろうか。」そんな不安と期待を胸にスタートしましたが、2年の履修期間を全うすることができた今、感無量の面持ちです。

私には、社会人大学院生の宿命である仕事と学業の両立に加えて、遠距離通学というハンディがありました。そんな時、ピンチを救ってくれたのがDBSで共に学ぶ仲間でした。DBSで学ぶ仲間は志を同じくする強い絆で結ばれています。本当に感謝の言葉が尽きません。

DBSの魅力のベースには、同志社大学の建学の精神である良心教育があります。先生方による講義はもちろん、国籍・性別・年齢・職業を超えて尊敬しあえる仲間との学びはとて大きいものでした。それは修了後もDBSNを通じて続いています。講演会やイベント等、学びをフォローアップする機会に恵まれているのです。こうして得られた知見と理論を、地元で地域経済活性化の果実につなげていきたいと考えています。

「叩けよ、さらば開かれん。」DBSへの進学を迷っている方は、是非自らの可能性の扉を叩いてください。修了の暁には、「一皮むけた」自分にきっと出会えることでしょう。DBSでは素晴らしい先生方とかけがえのない仲間があなたを待っています。



2024年3月修了
山本 崇之さん 修業年限：2年
(やまもと たかゆき)

ユーロフィン分析科学研究所株式会社
経営統括部 営業企画担当

科学分析の受託サービスに関する営業活動を担当しています。市場の情報を参考にしたサービスの立案・構築や、グローバルに展開するグループ会社からの情報収集も行います。



2024年3月修了
佐藤 尚美さん 修業年限：2年
(さとう なおみ)

ジョーンズラングラサル株式会社

DBS在学中は、建築マネジメント会社にて海外案件におけるプロジェクトマネジメントを担当。修了後は、不動産総合サービス会社のソリューション提案事業部にて営業を担当。



2024年3月修了
恩地 宏彰さん 修業年限：2年
(おんち ひろあき)

福井県行政書士会所属
行政書士恩地宏彰事務所 代表

地元である福井県で行政書士事務所を開業し、「まちの法律家」として主に企業向けに国際業務のアドバイスや行政手続きの支援を行っています。

DBSネットワーク

2006年3月、ビジネス研究科在学中に培われた人々の輪が“DBSネットワーク”として組織されました。DBSネットワーク代表幹事の菅野紗代さんからその活動についてご紹介いただきます。



2024年3月修了
菅野 紗代
(かの さよ)
京都中央信用金庫

DBSネットワーク(DBSN)は、DBS在学学生、修了生、教職員から成る組織で、2006年3月に立ち上がりました。現在は、京都本部、東京分会、名古屋分会の3カ所を拠点として活動しており、ビジネス専攻生だけでなく、グローバル経営研究専攻生も参加しています。DBSのミッションの一部に、「企業や組織の成長を支えるリーダーシップを備えた人物を育成する」とあります。DBSNもこのミッションにもとづき、構成員の成長や活躍を支援するため各種イベントを開催しています。

DBSは、違うフィールドで活躍する優秀な人達が一同に会

し、年齢も役職も関係なく、互いに切磋琢磨しながら学び合うことができる場です。同期生や先輩後輩とのコミュニケーションを楽しみながら、新たな知見や視点を体得していくことができます。私自身も、優秀な仲間恵まれ、授業内のディスカッションやグループワーク、授業外の対話を通して、多くの学びを得ることができました。

終身雇用の時代は終わり、あらゆる仕事がロボットに取って代われ、生成AIも登場しました。人の価値を判断する基準も、時代と共に大きく変化しています。こんな激動の時代を生き抜くためには、どんな視点で物事を捉え、そこから何を考え、どう行動していくかが重要です。DBSNでは、在学中の学習や研究をサポートすることで、在学がDBSで多くの知識と知恵を蓄え、修了後もビジネスの場で益々活躍できるよう、今後も力を尽くして参ります。また、修了生が繋がりが合う場を作り続けることで、業種や地域の垣根を超えた、新たな価値を世の中に創出できればと考えています。

在学中も、修了後も、刺激的な学びと成長が得られるのがDBSの強みです。入学を検討されている方は、ぜひ勇気を持って、DBSの扉を叩いていただければと思います。

DBSN活動紹介

2023年度活動実績〈例〉

6月 4日(日) ゼミ相談会

9月 9日(土) 外部講師登壇イベント「イノベーションのための思考と行動とは一エフェクチュエーション」

9月30日(土) SR相談会

3月 2日(土)・16日(土)・30日(土) 名誉教授による特別講義

※上記以外に幹事会、定時総会、入試説明会・オープンスクールの協力などを実施



外部講師登壇イベントの一場面



名誉教授による特別講義の一場面



修了生による恒例の帽子投げ

入学前から修了まで、多様なニーズに対応する充実したサポート体制

ビジネス研究科には、様々な職務経験をもつ社会人から、大学生まで、幅広い年齢層の多様な人々が入学し、個々の学ぶ目的やキャリア目標なども多様です。このような多様性に富むビジネススクールという特徴を踏まえて、入学前から修了まで、多様なニーズに対応する充実したサポート体制を整えています。

半期に一度の個別履修指導

DBSでは、入学から修了まで教職員が一貫して様々な指導と相談に当たります。特に春学期と秋学期の履修登録期間開始前には、専任教員が全在校生に対して個別の履修指導を実施しています。この指導を通じて、学生は自身の多様な経歴と将来のキャリアデザインに合わせた履修計画(時間割)を策定することができます。

【在校生の声】



河野 朋子
かわの ともこ
シスメックス株式会社
診断薬エンジニアリング本部

多くの経験を有する指導教員の皆様から、シラバスでは理解が足りなかった授業の詳細説明や、学習した知識が効率良く定着する履修の順番など、2年間という短い期間の中で経営学を体系的に、より深く学べるよう専門的な視点からアドバイスを頂いています。

大学より、細胞やタンパクなどを
使った研究に従事してきたため、

DBSへの入学は全くの異分野への新たな挑戦となりましたが、学生自身の学びに対する興味関心と、目指したい姿に一番に寄り添いながら、個人が持つ強みやバックグラウンドに合わせた心強いサポートが印象的です。

授業からプロジェクト研究、そしてキャリア形成まで、多様な学生が集うDBSだからこそ様々な価値観に基づいたアドバイスを受けることができ、自身の可能性を大きく広げられると感じています。

入学相談



大橋 亜子
おおはし あこ
企業派遣担当
プログラムディレクター

ビジネス研究科には、「DBSでは何を学ぶことができるのか」「仕事との両立や、学ぶためにはどのくらいの時間的余裕が必要か」など様々な入学に関する相談が寄せられます。このような相談に対応するため、適宜入試説明会を開催するほか、オープンスクールを実施し、実際の授業を体験していただく機会を設けています。

説明には、専任教員ならびに専門のプログラムディレクターが当たり、入学に関する個別の相談に常時対応する体制を整えています。また、留学生や海外ビジネススクールとの連携についても相談に応じています。

企業派遣をお考えの方については、企業派遣担当のプログラムディレクターが窓口となり、企業を訪問しての説明にも対応しております。

キャリアアドバイス



山本 良子
やまもと よしこ
キャリアアドバイザー

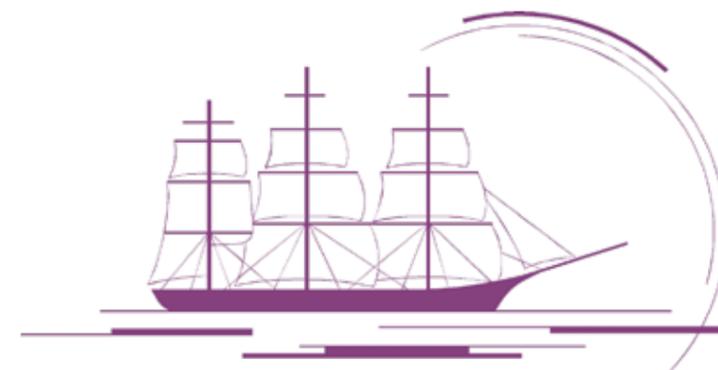
企業で様々な業務に携わってきたアドバイザーが、ビジネス研究科専従のキャリアアドバイザーとして、企業内におけるキャリアパスに関する相談、新たなキャリアに向けての相談など、キャリアに関する様々な相談に応じています。また、本学キャリアセンターにも、キャリアカウンセラーやアドバイザーが常駐し、いろいろなアドバイス、情報提供を行っています。寒梅館3階には、キャリア関連の資料を集めたコーナーも設けています。

様々な機会を通じて本研究科の紹介・入学相談を実施しています。

- 授業体験：本研究科の実際の授業の一部を聴講していただけます。
- オープンスクール：専任教員、修了生・在校生が本研究科の説明や入学相談に応じます。
- 入試説明会：秋・春それぞれの入試について説明をいたします。
※日程等詳細につきましてはビジネス研究科ホームページ
(<https://bs.doshisha.ac.jp/>)をご覧ください。
- 個別相談：常時受け付けています。

相談をご希望の方は下記へご連絡ください。

TEL：075-251-4600
FAX：075-251-4710
E-mail: ji-dbs@mail.doshisha.ac.jp



DBS

同志社ビジネススクール

同志社大学大学院ビジネス研究科

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入

TEL 075-251-4600 FAX 075-251-4710

E-mail ji-dbs@mail.doshisha.ac.jp

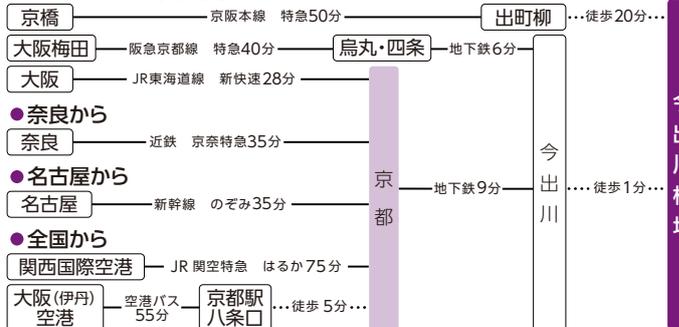
URL <https://bs.doshisha.ac.jp/>

京都今出川校地 寒梅館

京都駅から10分 / 烏丸四条から7分 / 今出川駅から徒歩



●大阪・神戸・京都から



〒602-8580
 京都市上京区今出川通烏丸東入
 TEL 075-251-4600
 地下鉄「今出川」駅 / 徒歩1分
 京阪「出町柳」駅 / 徒歩15分
 E-mail ji-dbs@mail.doshisha.ac.jp
 URL <https://bs.doshisha.ac.jp/>

大阪サテライト・キャンパス

JR線「大阪」駅 / 徒歩3分 地下直通



〒530-0001
 大阪市北区梅田1-12-17
 JRE梅田スクエアビル17階
 TEL 06-4799-3255

